

次世代育成・働く女性ワークショップ（名古屋会場）
～子供を生み育てやすい地域づくり、女性が活動しやすい地域づくり～
開催結果概要

日時	平成 18 年 8 月 9 日 13:00～15:00
会場	三菱UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 第2セミナールーム
ファシリテータ	柵木 由美（名古屋市こども青少年局 子ども未来部子ども事業調整室長）
発言者 （勤務先名称五十音順、敬称略）	古木 由美（旭中部資材(株) 専務取締役） 谷口 禮子（大和ハウス工業(株) 管理部総務課主任） 蒔田 知子（税理士法人 中央総研資産税部代表社員） 光田 清美（名古屋市総務局 総合調整部男女平等参画推進室長） 西尾 恵子（(株)三菱東京UFJ 銀行 大津町支店外国為替課 AP 職） 津田 あゆみ（三菱UFJ リサーチ&コンサルティング(株)政策研究事業本部研究員）
オブザーバー	石原 篤（国土交通省中部地方整備局 企画部事業調整官） 大城 温（国土交通省中部地方整備局 企画部企画課課長）
進行補助	加来 雄二（三菱UFJ リサーチ&コンサルティング(株)政策研究事業本部主任研究員）



議論のポイント

現状

<女性にとっての働きやすさ>

- ・育休制度があっても、制度を活用して復職する人が少ない
- ・出産・育児後に正社員として復職しにくい
- ・男性並の働き方ができる女性を職業人として求める風潮がある

名古屋地域の特徴

- ・通勤時間が短く、家庭と仕事が両立しやすい環境にあるのではない

<子どもの生み・育てやすさ>

- ・身近に子育てと仕事を両立している人がいない
- ・結婚・出産後も仕事を続けていくことができるか不安
- ・育児と仕事の両立は家族など周囲のサポートが重要
- ・子育て支援サービスなど行政等の支援制度が十分に知られていない

名古屋地域の特徴

- ・親が近くに住んでいるケースが多く、子育てに親の協力を得やすい環境にあるのではない

どう改善すべきか？

- 女性の復職に対するサポートが必要（休職中の研修制度・家庭と仕事を両立できる職場の斡旋等）
- 男性も家事や育児と仕事を両立できるよう働き方を見直すべき
- 子育て支援などの行政サービスの情報が入手しやすい環境整備を
- 地域で助け合うコミュニティやネットワークづくりが大切

地域づくり・まちづくりに求められる視点

○家庭と仕事を両立しやすいまちづくり

- ・職場と住まいが近接したまちづくりの実現
- ・駅周辺に生活利便機能が集積したまちの形成
 - 保育園等の子育て支援施設
 - スーパーなどの買い物施設
 - 駐車場

○子育てしやすいまちづくり

- ・子どもも女性も安全に快適に移動できるまちづくり
 - 歩道の段差等の解消
 - 公共施設、公共交通機関のバリアフリー化
 - 安心して歩行できる歩道の整備（歩行者と自転車の分離）
- ・親子同士が交流できる場づくり
 - 子どもの遊び場の確保
 - 商店街の空き店舗や学校の空き教室などを活用した交流の場づくり

第1部①：女性にとっての働きやすさの現状について

○育休制度があっても、制度を活用して復職する人が少ない

- ・ 育児制度の整備が進んでいると思うが、現実には育児休暇の取得や産休・育休後の復職がしにくい状況にある。
- ・ 生涯通して働こうという意欲を持った女性は増えつつあるが、結婚（出産）したら専業主婦になるという意識は依然として根強い。
- ・ 産休・育休はキャリア・アップや職場における評価の上でロスが大きいため、取得をためらう人が多いのではないか。
- ・ 社内制度によっては男女ともに育児休暇がとれる企業もあると思うが、実際は、特に男性が育児休暇をとっている事例は少ない。

○出産・育児休暇取得後に正社員として復職しにくい

- ・ 復職しても、家庭と仕事の両立が困難になり退職してしまうケースが多い。
- ・ 正社員であっても働く時間の融通が効くようにならないと家庭と仕事の両立は難しい。

○男性並の働き方ができる女性を職業人として求めている風潮がある

- ・ 能力とやる気があれば男性も女性も性別に関係なく評価されるようになったが、男性並みの従来型の働き方ができる女性を職業人として求めている風潮があるのではないか。

第1部②：子どもの生み育てやすさの現状について

○身近に子育てと仕事を両立している人がいない

- ・ 結婚や出産を機に退職する先輩が多く、身近に仕事と家庭を両立している人がいないため、結婚して子育てしながら仕事を続けていくことに不安がある。

○結婚・出産後も仕事を続けていくことができるか不安

- ・ 復職する意欲はあっても、復職するメリット・デメリットがわからないため、復職をためらう人も少なくない。

○育児と仕事の両立には家族など周囲のサポートが重要

- ・ 核家族化によって、育児について相談する相手がなく、母親が育児ノイローゼに陥ってしまうケースをよく聞く。地域で助け合うコミュニティをつくっていくことも重要ではないか。
- ・ 育児は男性にもできるが、男性の育児休暇取得や家事・子育てへの参加度合いは依然として低い。
- ・ 首都圏に比べると、この地域は通勤時間が短く、育児と仕事を両立しやすい環境にあるのではないか。
- ・ 親が近くに住んでいるケースが多く、子育てに親の協力を得やすい環境にあるのではないか。

○子育て支援サービスなど行政等の支援制度が十分に知られていない

- ・ 様々な行政支援やサービスがあるにもかかわらず、その存在が行き渡っていない。
- ・ 行政サービスなどどのような支援制度があるのか知りたいが、どこで情報が入手できるのかあまり知られていないように思う。

第2部：どうあるべきか・いかに改善すべきか？

○女性の復職に対するサポートが必要

- ・ 産休・育休取得中の職員に対して、復職しやすいように情報提供したり、研修を行うなど支援が必要。
- ・ 復職する人には、時間の融通が利く職場・職種を斡旋できるような態勢を整える必要がある。

○男性も家事や育児と仕事を両立できるような働き方を見直すべき

- ・ 男性が家事や育児をすることも当たり前という環境になりつつあるが、子供の頃から家事や育児に対する価値観を萌芽させるための教育が必要だと思う。
- ・ 男性も家事や育児を分担できるように、男性の働き方の見直しが必要である。

○子育て支援などの行政サービスの情報が入手しやすい環境整備を

- ・ 行政機関の窓口だけでなく、スーパー等の生活者の目に付く場所で、支援制度やサービスについての情報が入手できるようになれば良いと思う。
- ・ 子育てに追われる母親では得られる情報も限られている。家の外で働く父親から情報が伝わるようなしくみを考えてみてはどうか。

○地域で助け合うコミュニティやネットワークづくりが大切

- ・ マンション住まいになると、近所づきあいが極端に減り、何かあったときに力になってくれる方がいないのが不安である。
- ・ 地域のネットワークやコミュニティを構築していく取り組みがあると良いと思う。

第3部：地域づくり・まちづくりに求められる視点

○家庭と仕事を両立しやすいまちづくり

＜職場と住まいが近接したまちづくりの実現＞

- ・ 家庭と仕事は両立させるためには、職住近接によって時間を有効に使える暮らし方が適している。
- ・ 職場、家庭、コミュニティが徒歩圏内で形成されたまちづくりができれば良いと思う。

＜駅周辺に生活利便機能が集積したまちの形成＞

- ・ 駅等の交通結節点周辺に遅くまで営業しているスーパーや保育園、学校等の施設が集約されれば、働きながら子育てしている親にとって住みやすいまちとなる。今後、駅ビルを整備する際にはこのような機能を付帯させるように誘導していくといいのではないかな。
- ・ 保育園への送り迎えや買い物には車を使いたいという人もいるので、駅に併設した駐車場をある程度整備する必要がある。

○子育てしやすいまちづくり

＜子供も女性も安全に快適に移動できるまちづくり＞

- ・ ベबीカーを押して移動する際に、歩道の段差や整備箇所が途切れていることなどが障害となっている。
- ・ 万博に合わせて、駅におけるエレベータやエスカレータの設置が進んだと思うが、設置されている箇所が離れているため不便を感じる。
- ・ 整備が進み歩道は広くなっているが、歩行者と自転車利用者の区別ができておらず、歩行者にとっては危険な面もある。自転車の通行帯の整備が必要ではないかな。

＜親子同士が交流できる場づくり＞

- ・ 子供が友達を作るためには、親同士が仲良くなることも大切で、子どもの遊び場や親子同士が交流できる場を整備する必要があるのではないかな。
- ・ 学校の空き教室や商店街の空き店舗などを活用して、子どもの遊び場を確保したり、地域のコミュニティをつくっていくといいのではないかな。